

## ふき

農薬取締法上「ふき」と「ふき（ふきのとう）」は別の作物である。

—— 発病・加害時期  
 === 発病・加害最盛期

作型・病害虫名		月														
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12			
促 抑	成		■	■	■	■		○	×	×	×	×	▲			
	制		■	■	■	■		○	×	×	×	×	▲	■		■
白	絹病				——	——							——			
灰	色かび病				——	——										——
半	身萎凋病	——														——
コ	ナジラミ類				——	——										
ア	ブラムシ類				——	——										
フ	キノメイガ									——	——	——	——			
ヨ	トウムシ									——	——	——	——			
ハ	スモンヨトウ									——	——	——	——			

## 白絹病

### 留意事項

- 1 高温多湿が続くと発生が多い。
- 2 かん注は地際部にもよくかかるよう株元に行く。
- 3 SDHI剤<<7>>は、耐性菌が出現しやすいので、1作1回程度の使用に努める。

### 防除方法

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 田畑輪換を図る。
- 3 定植前または植付時に下記の薬剤を施用する。
  - ・ [リゾレックス粉剤](#) <14> 【20~40kg/10a 土壤混和 定植前/1回】
  - ・ [バリダシン液剤5](#) <U18> 【800倍 30分間種茎浸漬 植付時/1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を土壤に処理する。
  - ・ [リゾレックス水和剤](#) <14> 【1000倍 株元かん注 (3L/m<sup>2</sup>) 21日/1回】
  - ・ [バリダシン液剤5](#) <U18> 【800倍 かん注 (3L/m<sup>2</sup>) 7日/5回】
  - ・ [モンカット水和剤50](#) <<7>> 【1000~2000倍 土壤かん注 (3L/m<sup>2</sup>) 定植時および生育期(収穫30日前)/2回】

## 灰色かび病

### 防除方法

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- 1 被害株は早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 2 発生が見込まれる時期に、下記の薬剤を予防的に散布する。
  - ・ [ダコニール1000](#) <M5> 【1000倍 21日/2回】
  - ・ [セイビアーフロアブル20](#) <12> 【1000倍 7日/2回】
- 3 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スミブレンド水和剤](#) <2> <10> 【1500倍 14日/2回】

## 半身萎凋病（はんしんいちょうびょう）

### 留意事項

- 1 本病は土壌伝染及び種茎伝染し、なす・トマト等の半身萎凋病と共通の病原菌である。
- 2 発病適温は気温22～26℃である。

### 防除方法

- 1 連作を避け、田畑輪換を図る。
- 2 種茎は発病の見られないほ場の健全株から採取する。
- 3 被害株は根を含めて早めに除去し、ほ場外へ持ち出し処分する。
- 4 本ぼを土壌消毒する。（**XⅢ**土壌消毒 参照）
  - ・ [バスアミド微粒剤](#)、[ガスタード微粒剤](#) 劇 <—>  
【30kg/10a 均一に散布して土壌と混和 は種または定植21日前/1回】
- 5 夏期高温時に太陽熱利用による土壌消毒も有効である。（**XⅢ**土壌消毒 参照）

## モザイク病

### 防除方法

- 1 ウイルスによるモザイク症状や萎縮が発生した株は廃棄し、種茎として用いない。
- 2 アブラムシ類の防除に努める。（アブラムシ類の項 参照）

## コナジラミ類

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 収穫後の作物残さは処分する。
- 2 施設では、開口部を寒冷しゃやネット（目合い0.4mm以下）で被覆する。
- 3 ほ場内や周辺部の除草を徹底する。
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [スタークル顆粒水溶剤](#)、[アルバリン顆粒水溶剤](#) <4A> 【2000倍 7日/2回】

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

- ・ [モスピラン顆粒水溶剤](#) 劇 < 4 A > 【3000倍 14日/2回】
- ・ [トレボン乳剤](#) < 3 A > 【1000倍 14日/3回】
- ・ [サンマイトフロアブル](#) 劇 < 2 1 A > 【1000倍 14日/2回】

## アブラムシ類

### 留意事項

- 1 ウイルス病を媒介する。
- 2 パダンSG水溶剤は、眼に対して刺激性があるので、調製時には保護メガネを着用して眼に入らないよう注意する。

### 防除方法

- 1 施設では、開口部を寒冷しゃやネット（目合い0.8mm以下）で被覆する。
- 2 ほ場内や周辺部の除草を徹底する。
- 3 下記の薬剤を施用する。
  - ・ [スタークル粒剤](#)、[アルバリン粒剤](#) < 4 A >  
 【20kg/10a 土壌表面散布  
 定植後～生育期（草丈20cm頃まで）（収穫45日前）/1回】
- 4 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 < 1 4 > 【1500倍 7日/2回】
  - ・ [ウララDF](#) < 2 9 > 【4000倍 7日/2回】
  - ・ [アドマイヤーフロアブル](#) 劇 < 4 A > 【4000倍 7日/2回】

## フキノメイガ

### 留意事項

- 1 地下茎にも食入することがある。
- 2 パダンSG水溶剤は、眼に対して刺激性があるので、調製時には保護メガネを着用して眼に入らないよう注意する。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [トレボン乳剤](#) < 3 A > 【1000倍 14日/3回】
  - ・ [パダンSG水溶剤](#) 劇 < 1 4 > 【1500倍 7日/2回】

## ヨトウムシ

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [トレボン乳剤](#) < 3 A > 【1000倍 14日/3回】
  - ・ [BT剤](#) < 1 1 A > （区野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照）

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。

## ハスモンヨトウ

### 留意事項

- 1 薬剤抵抗性が生じやすいので、同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

### 防除方法

- 1 発生を認めたら下記の薬剤を散布する。
  - ・ [コテツフロアブル 劇](#) <13> 【2000倍 7日/2回】
  - ・ [アタブロン乳剤](#) <15> 【2000倍 3日/3回】
  - ・ [ファルコンフロアブル](#) <18> 【4000倍 3日/2回】
  - ・ [BT剤](#) <11A> (IX野菜類の病害虫防除 3野菜類 参照)

注1：同じ農薬名でも、メーカーにより登録内容が異なる場合があるので、使用時には登録を確認してください。

注2：異なる農薬名でも、同一成分を含む場合があるので、成分の総使用回数はラベルで確かめて使用してください。